

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200117		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム東山しょうぶ苑		
所在地	福島県会津若松市千石町5-8		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとり一人のニーズに答え、居心地の良い居場所作りに努めています。職員同士声を掛け合い、助け合いの心でチームワークを大切に職場作りを目指しています。又、コロナの影響により今年度は実施出来ていませんが、サロンの開催や地域行事への参加により地域との繋がりを大切に、長年において民生委員や区長等にも協力を頂いています。今後も職員ひとり一人の特性を生かし、チームワークを大切にしながら、利用者様、ご家族の要望に柔軟に対応が出来るよう努めていきます。

地域密着型サービスを理解し、理念をもとに利用者一人ひとりの希望する環境を考慮し、好きな事を引き出し笑顔で暮らせるようにしている。管理者と職員はコミュニケーションを取り、利用者の要望や問題解決に素早く取り組んでいる。職員の取り組みにより、利用者は地区の文化祭にも自らの作品を通し地域との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員には理念を伝え、継続して全職員で話し合いの中で共有し確認している。	理念は、年度はじめに、職員全員に案を出してもらいそれを元に話し合っ作成している。利用者一人ひとりの希望する環境づくりに出来る限り対応できるように工夫している。笑顔で接し笑顔で日々過ごしていけるように活かしていきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響により、外部の受け入れや地域行事への参加も出来ていない。	自治会に加入して、地域の運動会・敬老会・地域サロンやカフェに参加している。小学生のバリアフリーの学習の説明をしたり、中学生の職場体験の依頼を引き受けている。ボランティア活動の課題で高校生の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、キャラバンメイトの講座のお手伝いとして1度参加させてもらったが、今年はコロナの影響で活動出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為に書面にて報告とし、評価、意見、要望等を返信用紙で頂けるようにしている。その中の意見を参考にさせて頂いている。	以前、大雨により施設外回りが水浸しになり、民生委員や消防団員の方々に支援して貰ったことがある。床上浸水について意見を貰い、避難訓練を行っている。初心に戻り意見、要望を取り入れ、多方面から評価して貰えるよう窓口を広げていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故、誤薬等があった際には、速やかに市町村担当者に報告、相談し対応策を協議し、結果も含め報告し協力関係の構築に努めている。	災害情報やコロナ対策、研修の案内等を知らせてもらっている。特に大雨による情報や、感染症対策マニュアルの情報も欲しいと考えている。市への要望として、事業所側の意見にも耳を傾けてほしいと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとに事業所内で身体拘束廃止委員会を開催し、苑での身体拘束の確認、話し合いを行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	原則として、身体拘束およびその他の行動制限を禁止している。言葉の拘束について気づいたときは、職員間で声を掛け合い、拘束しないようにしている。一人歩きする方には、見守りと行動前に気を付け、杖や歩行器使用や必要に応じて付き添いをしていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について勉強する機会を作っている。又、職員同士のコミュニケーションを良好にすることで、ストレスを溜めない職場づくりに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様がいるので、引き続き支援に努め職員間での理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に必ず十分に内容の説明を行い、不安や疑問が残らないよう心掛け、納得、理解して頂いた上で契約に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で思いや要望を引き出し運営に反映できるよう心掛けている。ご家族には面会時やモニタリングの際に要望を伺い、又、普段の会話の中からも話しやすい環境作りに努めている。	利用者の希望により、ご飯はやわらかめにして提供している。もっと利用者の普段の様子が知りたいという家族の要望に、月ごとのお便りを渡すことにより利用者の暮らしぶりを伝え安心してもらえるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やミーティングの時に職員の意見や提案、気づきを取り上げ、検討し必要ことは運営に反映させている。又、普段より話しやすい環境作りに努めている。	管理者は職員の意見は、すぐその場で内容の検討、話し合いを行っている。実践することで、検討・見直しを繰り返し良い結果をめざしている。職員のコート置き場がなく困っていたが、提案によりハンガーラックを購入し整理整頓が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員個々の努力や実践、勤務能力を評価することで、向上心を持てる環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年法人内研修を定期的に計画し行っていたが、コロナの影響もあり、感染対策をしたうえで、出来る範囲での内部研修を実施している。管理者向けの研修を実施し、その研修で職員の育て方や働きやすい環境づくり等を学び、運営に生かせるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を月に1回開催し、交流を図り情報交換を行っている。その中で、より良いサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族、担当ケアマネ等から入居前の状況や状態を伺いサービス内容に反映している。又、情報を共有することで本人の安心確保とより良いサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や実態調査、契約時等にこれまでの経過を詳しくお聴きし、不安や心配な事にも耳を傾け安心してサービスが導入出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込の相談時に状況や状態を確認し話し合い、必要な支援やサービスを見極め必要によっては、他のサービスや施設等の紹介等、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の情報や日々の生活や会話の中から特徴をつかみ、得意とすること興味のある事を引き出し役割として協力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診後の報告はもちろん、状態変化時等常にご家族に報告、相談することで情報を共有し協力を頂けるよう働きかけている。コロナ禍の中、面会が難しい状況の為、電話で話をさせて頂き安心して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度までは、馴染みの方の面会やご家族の協力も得ながら馴染みの場所に足を運べるよう支援できていたが、今年度はコロナ禍の中実践できていない。	家族からの要望で 利用者の昔からの集まりや食事会などの出席には職員が支援し、次回開催についても電話により継続支援が図られている。馴染みの美容室の送迎も家族と協力して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し関わりが持てるよう、カウンター席や談話場所の位置などに考慮し、利用者同士が関わり合い、良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態変化等により退居された後も、次の施設の紹介や申し込みの代行、及びその施設等への情報提供の支援や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人の意向をお聞きし何気ない会話の中からも希望や意向を聞き出している。困難な場合にもその方の表情や動作など細かい観察を怠らず、本人の希望に添うよう努めている。	思いや考えを伝えたい利用者には、返答式や二択式で意向を確認している。新聞の配達に気がなり帰宅願望の強かった利用者には、ホームに配達してもらうことにより以後は願望が軽減したりするなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご家族や担当介護支援専門員、利用しているサービス事業所等から情報を頂きながら、これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握することで、その方の有する力等の発見に努め、職員同士で共有しその方の居場所作りにも配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはもちろん、何か変化があれば報告させていただき、常に情報交換を行っている。又、日頃の変化にも早期に気付き対応することで、現状に即した介護計画に取り入れている。	サービス担当者会議の時は家族の出席をお願いしている。遠方で困難な家族には、電話で意見を聞いている。提案を基に介護保険対象外の福祉用具レンタルをプランに反映することにより、使用後は利用者の自立に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り、職員会議など他にも日頃から日々の気づきや問題点、改善点等について話し合い、申し送りノート等で即日に情報を共有し、介護計画の見直しにも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、必要なニーズにおいては早急に職員間やご家族とも報告相談を行いながら、必要なサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により外出等が厳しい状況であった為、苑内で楽しんで頂けるレクや作品作りに取り組んだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を優先し、かかりつけ医の継続に努め、必要に応じてその方に合った治療が受けられるよう相談し協力を得ながら受診に努めている。又、受診結果についてはご家族、訪問看護師にも報告し情報の共有に努めている。	受診の基本は、職員対応だが、希望があれば家族対応、または同行している。遠い病院の場合は、家族対応でお願いしている。専門診療の、耳鼻科、眼科、歯科医院は家族対応でお願いする場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に状態報告や相談をし、指示を受けている。又24時間対応で訪問看護師の指示を受けることが出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には苑での状態を申し送り、介護サマリーの活用により安心して治療が受けられるようにしている。又、状態変化時や退院時にはカンファレンスを要望し医師やケースワーカー、ご家族と連携を取りながら退院後も安心した生活が送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての対応の説明を行い、その都度相談や検討の必要性についても説明している。又、状態変化の際には、ご家族に報告し意向を確認しながら支援している。	家族へ便り、利用者の状態や状況を知らせ、共有している。週一度の訪問看護を通じて協力医院に情報を伝え、体調変化に速やかに対応、受診が出来るようにしている。職員が、重度化や終末期に対応するため、研修等を通して学んでゆきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命救急講習を受け、事故発生や急変時の対応マニュアルを目の付くところに掲示している。又、利用者様の既往歴や服薬情報を一覧表にしており、救急要請時に素早い対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回防災訓練を実施し、又地域の民生委員や町内会長等に災害時の応援要請が出来る体制を整えている。非常食の確保も行っている。	消防署の協力を経て、避難訓練の評価や指導をして貰っている。地区消防団の方々に事業所内を見学して貰い、避難経路等把握してもらっている。職員は訓練に、年に一回以上は参加できるようにしている。火災・水害・地震・不審者を想定し訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念と敬う気持ちを忘れることなく、言葉かけには充分注意しプライバシーを損ねない対応を心がけている。	居室に入る場合や利用者の体に触れる時は、声かけしてから行うようにしている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、常に利用者の関係性を観察しながら、何かあれば職員が間に入り声かけしサポートしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、体調や表情の変化を汲み取りながら声掛けや対応により、本人の希望や思いに耳を傾け自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、日頃より本人の意思の確認や意見をその都度伺いながら、本人のペースで希望に添った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴はもちろん、汚染時には着替えを行い、常に清潔な身だしなみに気を付けている。又、季節、気温に合った洋服を着用出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に喜んで食べて頂けるように、彩りや季節の物を取り入れながらのメニュー作りを心掛けています。又、体調を見ながら出来ることを見つけ、食器の後片付けやお手伝いをして頂いている。	一人ひとりの食べる方に合わせて、食べやすくカットしたり、食が細い方には、好きな物を多めに、好きな味付けで少しでも食べて貰えるよう工夫している。年に何度か外食の機会を設け、とても良い表情や笑顔が見られ、ほとんどの利用者が完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	継続して食事量、水分量を毎食ごとに記録し、摂取量が少ない場合には申し送りなどにより補給が出来るよう工夫し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の能力に合わせた声掛けや見守り、介助にて支援している。又、用具についても定期的に消毒し清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄時間のパターンを把握し声掛けや誘導を行っている。またその方々の能力に合わせて出来る限りの自立支援に努めている。	トイレまでの場所が分かるように矢印や大きめの表示をしている。トイレ内には、手すりを始め利用者に必要な補助バーを設置している。利用者の排泄の自立を目指し一人ひとりのチェック表を生かして、失敗を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な方については、排泄日数を把握し服薬で調整をしている。水分量をチェックし、入浴後には牛乳を提供している。毎日のラジオ体操・歩行運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとり一人のその日のバイタルチェックを参考に、個々の支援に努めている。	入浴前には、体温はじめ利用者の健康状態をチェックし、目を離すことなく転倒やシャワーの温度には十分注意している。香りや色の薬用入浴剤の使用したり、季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣やペースを把握し体調に合わせた声掛けをし休息して頂いている。又、夜間の状態の申し送りに応じて日中・夜間と安眠の支援に努め換気・温度等においても適温で休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と薬の効能・副作用等について指示を受け、変更があれば申し送り、ノートを活用し職員全員の周知を行っている。薬剤師とも相談がしやすい関係が築けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、洗濯物干し、たたみ方等ひとり一人の出来ること、興味のある事、得意とすることを見つけ、役割を持ってもらうことで日々楽しく生きがいややりがいを持った暮らしが出来るよう生活の質の向上にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナの影響により受診以外の外出は出来ていない。	コロナの影響前は、利用者の習慣や生活歴、家族からの情報を基に体調に合わせ外出できるようにしている。家族の意見で、お正月には利用者が元気なうちに家族全員で外食したいとの要望に応えることができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に本人のお金の所持は行わず、施設管理としているが、利用者様の希望に応じて、必要な物を購入することで安心して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>コロナ禍で面会自粛中のため、苑からご家族へ電話をし、利用者様と話す機会を設けたり、電話があれば利用者様に繋ぎ、話をして頂いている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内の歩行スペースには、障害物となる様なものは置かず、歩行しやすい環境づくりに努めている。又壁面には月々の行事の写真や利用者の作品などを掲示し楽しみと季節感を感じて頂いている。</p>	<p>健康管理と感染症予防のために温度管理と換気を定期的に行っている。壁面には利用者の写真や季節ごとの飾りを行っている。テレビを見たり、新聞を読んだり、塗り絵や計算プリントなどに組み思い思いに過ごせる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとり一人が思い思いの場所で過ごされ、テレビ観賞、塗り絵、新聞を読まれたりと自由に快適に過ごされている。又、気の合う方同士の席の確保などにも配慮している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>落ち着いて過ごして頂けるよう、居室に思い思いの物や使い慣れた物を置いて頂いている。ゆっくりテレビが観られるよう配置にも配慮しゆったりと過ごされている。</p>	<p>自分の居室であることが分かるように、入口に利用者の名前を表示している。夏はドアに暖簾を付けることによりプライバシーを守っている。衣替えは家族にお願いしているが、遠方在住や仕事で忙しい家族に対しては担当職員が行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>苑内は全てバリアフリーになっており安全に移動が出来るようになっている。又トイレには目印をつけ、各居室には名前を表示し分かりやすくなっている。</p>		